

平成25年度第2回「松阪市地域公共交通協議会」議事録

日時 平成25年9月30日（月）9：00～

場所 松阪市役所 5階正庁

【出席委員】 寺本博美、加藤博和、小藪助次右衛門、中村真弓、馬場栄一郎、内田茂雄、中村利明、尾張雅史、森本臣紀、鳥田茂、西出みはる、松本隆雄、田中和子、長谷川悦子、寺脇功、岩松由洋、原田孝夫、濱瀬悦生、片倉一典、長谷川浩司、松林育也

【関係者】 三重交通、森タクシー、三交タクシー、嬉野地域振興局、三雲地域振興局、飯南地域振興局、飯高地域振興局

【事務局】 商工政策課 課長：内山次生 係長：大塚弘也、係：三田歩

《協議事項》

1. 委嘱状交付
2. 自己紹介
3. 松阪市地域公共交通協議会設置規則・財務規定・事務局規定について
4. 会長・副会長の選任について
5. 会長・副会長挨拶
6. 監査委員の選任について
7. 議 題
 - (1) 機殿朝見コミュニティバスの変更についての協議結果の取り消しについて
 - (2) 地域協働推進事業計画（平成25年度～平成27年度）について
 - (3) 次期「松阪市地域公共交通総合連携計画」について
 - (4) 「松阪市コミュニティバス路線評価システム」の改定について
8. その他

《協議内容》

会長

それでは、事項書に従いまして、4つの議題があります。それぞれ資料があり、追加の資料も合わせて、それぞれの議題について進めてまいります。

まず、議題1、「機殿朝見コミュニティバスの変更についての協議結果の取り消しについて」でございます。先般1月21日開催の協議会で合意をされましたが、その合意結果の取り消しを受けるための協議ということです。事務局から説明をお願いします。

事務局（機殿朝見コミュニティバスの変更についての協議結果の取り消しについて資料に基づき説明）

会長

10月1日からの変更を考えていたところですが、合意が得きれいかなかった部分があったようです。本来であれば、委員の方から地域の方にお話があったはずですが、100%の了解を得るといことは大変だと思いますが、今後こういうことが無いように。基本的には、地域の方がベースになって運行していくものですので、十分にこれから合意を受けながらお願いします。こういう結果になりました。いかがですか。ご意見などございましたら、遠慮なく。まさにコミュニケーションが大切です。何かありますか。

委員

事務局を預らせていただいている立場ですが、私も報告を聞いたときは唖然としたのですが。今後は、各自治会から承諾書をとるなどが必要なのかなどの意見が出ておりました。こちらで取り消しの議決をしていただいたものを持って、地域の運行協議会に持っていきたいと思います。ぜひとも今後もバスの時間や路線の変更などあるかと思いますが、そのときは、地域の方々には議論を重ねていただいて、きちんとした結論を出していただくようお願いします。

会長

細かいことまで、我々は見えませんが、充分ご審議いただきたいと思います。ということで、1件目の機殿・朝見線の変更についての協議結果の取り消しについての合意を受けたとさせていただきますと思いますが。

事務局

機殿朝見の運行協議会の委員の方がみえていますので、一言いただきたいと思いますが。

運行協議会委員

ご迷惑をおかけしております。朝見や機殿という地区は、よくも悪くもなあなあの地区でありまして、こうと言えば、うんと言う関係でございます。自治会長も1年ごとに交代する地区で、前自治会長がOKしても、次の自治会長でつまづくこともあります。私たちがきちんと確認すればよかったのですが、「これ頼むわな」と言えば、「うん分かった」と了解する地区でございます。ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでしたが、このことについては、改めて了解を得ながら進めてまいりますのでよろしくお願いいたします。

運行協議会委員

合意を得られていなかったために申し訳ございませんでした。先ほどもあったように、細かく2度3度の確認を行なっていなかったことは事実です。この地区については、スーパーなどの買物の希望も入れていただいております、80%以上は満足していただいている結果もありバスを大事に考えています。今回、同意が得きれいかなかった地域については、

2ヶ所、3ヶ所に分かれている地域であり、停留所が遠くなるので困るということでした。そこまで確認をせずに進めておりましたので、大変ご迷惑をおかけして申し訳ございませんでした。また、新しく提案させていただきますのでよろしくお願いいたします。

会長

今後のこともありますので、副会長からどうぞ。

副会長

まあ、あまり気にしなくてよいと思います。停留所は、直前にトラブルになることが良くあることなので、そのことであまり気にすることは無いと思います。とはいえ、矛盾しているのですが、そういうことが自治体や事業者主体のバスだとよくあることですので、住民の皆さんで話し合ってみんな納得しているなら大丈夫でしょうという部分が、こういうやり方をしている意味の一つですので、そこが出来ていないとすると、何のためにこういうやり方をしているのかということになります。また、私が思ったのは、一部了承していないということでしたら、残りの部分については出来なかったのかということですね。全部差し戻すというのはどうかとも思いました。それから、1月に協議が終わっており、変更が10月なので、時間があると感じました。早く協議をしたのに、この段になってやめるのもおかしいことだと思います。なので、そういったことをもう一度よく考えていただいて、どういう手続きでやっていくかということを見直していただきたい。先ほどなあなたとおっしゃいましたが、これからはどうかということも分かりませんので、充分注意して事務局にはやっていただきたいです。

会長

ということで色々ありますが、しないといけないときに、色々難しいですが、合意を得たとさせていただきます。

議題の2番目に移ります。資料に基づきまして地域協働推進事業計画についてです。平成25年度から平成27年度にかけてのものです。説明を受け議論を受け、議決したいと思います。事務局からどうぞ。

事務局（地域協働推進事業計画について資料に基づき説明）

会長

資料に基づきまして、三重交通の松阪営業所の実績の資料も合わせて。地域協働推進事業ということですが、コミュニティバスだけでなく民間バスも含めて目標として、利用者数減少率の抑制、こういう定量的、具体的な数値は出ておりませんが、こういう状態にあるという現状を維持していこうということに受け取れますが、ここを中心にご意見いただ

きたいと思います。

この計画に市としてどう関わっていくかを明確にしないといけないと思います。問題の立て方と合わせて、マイカーが中心となっていて、バスを利用する人たちが減っている、人口も減っております。高齢化であり、バスを利用しない。こういうことで良いのか。意地の悪い質問ですが、どうでしょうか。バスをなぜ使わないのか。誰が具体的に使わないのか。コミュニティバスを走らせてほしいという要望はあちらこちらから上がってきますが。では、どういうときに利用されますか。例えば松阪市の職員の人は通勤にどれくらい使われますか。どうでしょうか。

事務局

代表して答えさせていただきますと、職員課などに通勤手当などを確認しなければ分かりませんが、市役所の前の停留所を見ている限りですと、おおよそ5人ほどバスを利用して通勤していることがあります。個人的に言いますと、機殿朝見のコミュニティバスの沿線に住んでおりますので、以前は半年間くらい利用して通勤しておりました。また、雨が降ったりした場合などは、鈴の音バスや三重交通を利用して通勤している方はみえますが、恒常的に使っているという人は、少ないと感じております。

会長

今日の委員の方も基本的にはマイカーであっただろうと思います。こういう問題意識をたててというときに、捉え方を間違えると、解釈の方法を間違えるということがあります。その点が気になりましたので。何か具体的に、ご質問など。こういう形で、中身ですね。計画の中に書いてある事項ですので、これは対応していかなければいけません。コミュニティバスそのものは、基本的に地域の方たちと協働していくというのが一般的な経緯のようですので、行政が関わっていくということというのは、それなりの計画を推進し、それに伴う補助金・色々なルール、当然その中に記載することなどは合理的に説明できるようにしなければいけません。何かございますか。

委員

三重交通の方では、一番議論される部分かと思います。正直なことを申しますと、抜本策というのが見出せないところです。特に松阪地域においては、駅前周辺に自家用車の駐車場が非常に増えてきています。朝に駅をよく見に行きますが、どちらかというバスターミナルの方より、タクシーの乗り場があるロータリーに乗用車がどんどん来て渋滞しているのが現状です。その中でも私どももまったく努力をしていないわけではございません。松阪の駅を利用される方は、近鉄やJRを利用して通勤する人ということで、地域から鉄道へのアクセスを考えて、時刻の変更などを行なっているのが、現状です。では、それが抜本的な解決になるかと言えば、なりません。ハード面での改革やソフトでの部分で、少

しずつ地域の方に愛され利用されるように考えてきてはおります。抜本的な解決策は見出せてはおりませんが、個人的には、公共交通ということですので、草の根的な部分かと。モータリゼーションで自動車が1人1台という時代の中で、バスと自動車を比べたときに、どちらが便利かと言えば、皆さん自動車だとおっしゃるかとは思いますが、やはり体の不自由な方や、困ったときに使っていただければ。移動したいけどクルマで行くのは不便だなというときに、バスを利用していただける。そのときに乗務員も地域の方とコミュニケーションを図っていき、ファンを増やしていきたいと考えております。非常に申し訳ないですが、抜本的な解決策は見出せていないというのが現状です。

会長

現状と合わせて、色々感想を含めて述べていただきました。

委員

個人的な意見ですが、私たち60代前半から後半にかけては、すごく忙しい年代です。バスでのんびりできたら良いとは思いますが、その時間を作るのがすごく大変で、朝からきりきり舞いの毎日です。1回のんびりバスで回りたいと思いますが、現在は家事育児に追われて無理な状態です。私たち戦後の年代の人数が多いものがあと10年したら、車に乗れなくなるので、今、バスやコミュニティバスをつないでおかないと大変なことになると考えています。もう少ししたら、乗る人が多くなるのではないかと思います。

会長

先般のシンポジウムでも色々ありましたが、なぜこの歳になって忙しいのだろうというのがあります。本来であれば、もっと時間がゆっくり流れるのではないかと考えていたのですが。それにも関わらずなぜ忙しいのか、というのもあると思います。その中でも、それぞれが経験されていることと、地域の特性と合わせて考えていかないと、平均的な取り組みになってしまうことはありますので、そのあたりをきめ細かい取り組みをやっていただくことが、細かくなりますが、記述してもらえればと私は思います。

せっかくですので、新しくメンバーに加わっていただいた委員の方にご発言をいただければ。長くやってきている会なので、以前からの方ですとどういったことを考えられているかなんとなく分かる部分があります。新しい方は、分かりませんので。いかがでしょうか。

委員

商店街ですが、コミュニティバス、鈴の音バスですが、最初の目的というのが、もっと駅前の人に来ていただくということで、商店街も一緒になってコミュニティバスを作っていたのですが。結局、地域の方達は駅前には買うものがない、もっと商業ショッ

ピングセンターに行く路線を作って欲しいと。お金のことを言うのもなんですが、補助金だけではできませんので、地域から出していくお金も商店街だと小さいので、大型ショッピングセンターなどからお金がドンと入ると、そこに停留所が出来て、すると皆さんも行きたいところに行けるようになって、ということで駅前よりそちらの人が増えたと。商店街にみなさんが来たいと思える店が無いというのが、もともとの問題なのですが。ですので、コミュニティバスは、必ず駅前に来てもらえるのですが、駅前に来るのは、鉄道へのアクセスが目的で来ていただく、というカタチになっていますので。色々意見はあると思いますが、始発駅と到着駅をどのように上手く繋いで利用者を増やすのかというのを考えて計画していかなければいけないのではないかと思います。

また、利用者の方に聞くのですが、確かにバスは安いですが、グルッと回るので自分の行きたい時間に行けない、1回行くと4時間くらい待っていなければいけないということをよく聞きます。路線的にそんなに増やせるものでもありませんし、仕方ないかということをよく聞きます。

会長

非常に重要な内容でした。まず一つ目は、減っていくのを止めようというのではなく、利用者を増やそうという視点。でないと止めれば良いというのでは、寂しいです。もう一つは、利用するためには、バスだけでなく商店街の魅力でしょうね。なぜバスに乗らないかと言えば、バス自体に問題があるかもしれないし、楽しく乗れるということもあるかもしれません。運行事業者が知恵を絞ってしないといけません。後、時間についてですが、4時間待つ、4時間あれば歩いて帰れますから。いくつかの事例があったかと思います。何かございますか。

委員

平成18年7月10日に黒部線が出発しています。今になると、黒部線は順調に走っているようですが、今のコミュニティバスと最初立ち上げたときとでは、ニュアンスが変わってきていると感じています。最初、運行を始めるときには、福祉バスという名目でした。私の地域は財政的に厳しい地域でして、東黒部の方では、あまり反発は無かったのでしょうが、協賛金を集めるのも苦労しました。最初の市の担当者の方も利用が少なければ廃止になると言っていました。

利用者も月800人程度で維持できているようですが、明和町などの話も出ていますが、あまり範囲を広げると、時間もコストですので、黒部線だと30分程度で駅まで着きますが、あちこち回っていると朝見はそうですが、時間が長すぎるとよくない。いずれにしても当初の最低ラインはクリアして維持されていますが。色々旅客数を増やしていく対策をしなければいけません。始めは福祉バスで、今は色々なところから、要望は出てきているようですが、意識の切り替えが必要と感じます。委員をしておりますので、どうやっ

て維持していくかということ、個々の働きかけで行いたいと思います。全戸が同じように協力金を出していただいて、使っていただいています。停留所まではバイクや家族の車、停留所からはバス。そういう使い方が良いようです。黒部線は8年経ってきましたが、鈴の音バスもこの間乗ってみました。どこで何人乗って、何人降りてというのを調べてみました。やはり、街の活性化が大事で、シャッターが閉まっているところが気になりました。

会長

色々なご意見を頂きました。どのように地域と連携してやっていきましょうか。この会議の中で色々出てくるかと思えます。ありがとうございました。色々、次の問題も関係してきますが、松阪市コミュニティバスだけではなく、幹線バス、地域間バス、飯南や飯高のバスが取り上げられています。どこにポイントがあるのかを捉えていただいて、あれもこれもありますが、その協力をどうするか。時間も限られております。副会長いかがでしょう。

副会長

事務局に確認ですが、今回、この議題は協議になっていますが、こういったスケジュールでしょうか。もう1回やりませんか。

事務局

次の議題の連携計画については、今回の内容をたたき台にするつもりで、検討していただいて、年内にもう一度協議会を開催し、そちらで決定したものをパブリックコメントなど行なっていく予定で進めております。こちらの議題2協働推進事業計画についてですが、本日、目標を決めていただいて、協議で合意を得ていきたいと考えております。

副会長

この内容ですと、決められないと思います。今日、目標を決めてという状態ですと、決められないと思います。確認ですが、地域協働推進事業計画の資料2というのは、国土交通省の名前のつけ方がよくないとは思いますが、今日配布の資料の中の第2次松阪市地域公共交通総合連携計画、これは、この協議会の憲法のようなものなのですが、資料3は第3次ということで、2次が23～25年度で平成26年度以降が3次ということで、今は2次の計画です。中身は、松阪市はこういう公共交通体系があって、それを発展させていこうということが書いてあります。その中の利用促進をもっと地域の皆さん、団体の皆さんと一緒にやっていこうということを、より具体的に計画として書いたものが、資料2の地域協働推進事業計画です。なので、どういう風に利用を増やしていけばよいのかという、ソフト的な施策ですが、利用促進、普及啓発についての色々な取り組みについて、

皆さんにご提案いただいて、その中で国の補助を、半額ですが得られるものを得ていこうと。私が他でやっているところでは、委員全員に「あなたは何ができますか」という意見照会をして、その結果を踏まえて、何ができるかと国の補助をすり合わせて、国の補助がもらえるものなら、ここに25年度〇〇をする、26年度に△△をする、とします。そういう意見照会をしていないので、それをしてもらいたいです。その時に大事なのは、全員出すということでして、これは、地域公共交通協議会は、関係している人たちが全員集まって、この地域の公共交通をどう盛り上げるかという協議会で、そのときに諮問機関ではなく、実行機関という位置づけですので、市役所や三重交通だけ頑張るといって話ではなく、私はこれをしますので、手伝ってください。私とあなたでこれをしませんかといったことを、ここで議論しないといけません。だからそういった内容をこの資料にたくさん書いてあってほしいです。事務局に意見照会をしていただきたいです。自分でやりたいこと、他の誰かと組んで何か出来ないかということ、提案してほしいです。他の誰かということが出てきたら、それをできるかどうかすり合わせて、支局に見てもらって、国の補助がもらえないならやらないということでは、志が低いので。お金がもらえなくてもやればいいですが、もらえるなら貰っておいたほうが得なので、もらえるものはここにリストするという流れでやって欲しいです。地域協働推進事業計画の今年度については、1月くらいまでに作っておくとよいことが見込まれますので。今年度中にできることといっても皆さん思いつかないでしょうから、26年度にどういったことが出来るかということを見解照会でご提案いただく。一人1個以上、商店街でしたら何が出来そうか、警察では何が出来そうか、旧町だと何が出来そうかということをご提案していただきたい。高山市で先日委員会をしましたが、全員提案して貰いました。観光協会や、福祉団体など全部出していただきました。ですが、国のほうで3分の1ほどに削られましたが。自由に考えていただいて、何が出来るか、地域が活性化することによってどうすれば結びつけられるかを提案していただきたい。あと、実施する期間が25年度から27年度になっていますが、この後の3次連携計画が29年度なので、基本的に29年度にするべきですが。そもそも3次が29年度までとなっているのは、どうしてですか。

事務局

次の26年度から4年間とさせていただいているのは、松阪市の総合計画にあわせる力とさせていただきます。

副会長

29年度までとしたのは、総合計画と合わせたと書いておいて頂きたいです。また、連携計画の具体計画である協働推進事業計画についても29年度までとしておいていただきたいです。国からの補助が得られるのは、25、26ですので、27年度以降はそれぞれ、25、26は詳細に書いておくのが大事です。この制度は、不思議で計画は3年以上

で、国がお金をくれるのは、2年だけです。本来は、連携計画を基に行なうので、年度をあわせなければいけません。29年度は5年後なのでよく分からないので、皆さんに提案していただきたいのは、26年度に何ができるのかについてです。なので、今日は方法の説明だけでできないと思います。

会長

連携計画の中の具体的な協働推進事業計画ということで、切り離して考えることができないので、基本的な進め方として、連携計画にあわせた方がよいということです。基本的には、方式としてはこういうカタチで行きます。皆さんに意見照会するというので、良いことだと思います。宿題ということで。よろしいでしょうか。

つづいて、連携計画ですね。地域公共交通総合連携計画について話を進めていきます。事務局から説明をお願いします。

事務局

先ほどの地域協働推進事業計画について、皆様に文書で意見照会をさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

事務局（次期松阪市地域公共交通総合連携計画について資料に基づき説明）

会長

大量の説明でしたので、どこでどう繋がっているのか整理するのが大変だと思いますが、一枚でこれとこれがこう繋がっていると分かるものがあると良いと思います。細かいことで、これがあって先ほどの計画があるわけで、前の計画があってそのフィードバックがあるはずなのですが、その繋がりが見えてこない印象として感じました。皆さんいかがでしょうか。

委員

3点聞きたいです。まず、幹線バスとして位置づけられている津三雲線と伊勢松阪線ですが、松阪市に入ったとたんに終わってしまい、中心まで入ってこない。東京などが環状線内の乗入を抑制しているような感じですが、どうしてももう少し中心まで入れてもらえないかなと思います。次に鈴の音バスですが、将来のことについてですが、春日町の健康センターがまもなく立て直されますが、要望事項として鈴の音バスの乗入というのがありました。実際に将来そういうことが検討される余地があるのでしょうか。また、利用すると、グルッと回るのはないのかとを感じる人がいるようです。というのも、途中から乗ると、完全な循環ではなく、松阪駅で一旦降りて、乗継券を買い、10分程度ですが、待ち時間がありバスに乗り換えることとなります。その時間、バスはどうしているかというと、待

機しています。車両の運営や運転手の交代などがあるのだと思いますが、なんとか完全に循環できるようにならないでしょうか。

委員

はじめの質問についてですが、確かに津三雲、松阪伊勢線については、幹線バスになっております。確かに以前は、たくさんバスをご利用いただいていたときは、非常に遠距離でも、例を挙げると名古屋から伊勢まで路線バスを乗り継いでいくことは出来ました。最近テレビの番組でも路線バスを乗り継ぐということが人気を博しています。ただ、三重県の場合は、非常に利用者が少ないという中で、交通渋滞などもあり、その利用者がどれくらいいるのか、また利便性の観点から、他にも色々な観点があろうかとは思いますが、現状の路線となっているのが、現状でございます。では、この先以前のように路線が復活できるかと申しますと、現状では難しいという状況でございます。お答えになっているかは分かりませんが、そういう現状でございます。

委員

鈴の音バスのことを申しますと、一周するのに約 1 時間程度かかっております。現状、連続運転の関係で、休息・休憩をとっております。これを連続で運転しますと、それぞれ 2 周しかできない状態になってしまいます。今でも渋滞すると休息时间無しのような状態で運行している現状もあります。そのため、連続で運行するとなると人員が 2 人、3 人が必要となってくると思います。そうすると、経費も上がってくると思います。確かに改善も必要だと思しますので、ご意見よろしく願いいたします。

事務局

先ほど健康センターの関係のお話が出ましたが、私どもも健康センターの意見聴取会に出席しております。その中で、健康センターにバスの乗り入れをという意見があったことも承知しております。本日の資料の中にもございますが、こちらの協議会の中に作業部会を設置させていただき、今後の全体の見直しの中に入れて協議をしていきたいと考えておりますので、よろしく願いします。

会長

決定事項ではありませんので、新しい事業を展開していく中で、検討させていただくと。この方向で、連携計画を進めていきたいと、もっと細かい議論をするには、もっと時間が必要となると思います。今日は、この限られた時間の中で、計画の案ということで、ご理解いただければと思います。

副会長

健康センターの話が出ましたが、停留所をちゃんと設置するなら、施設の中にちゃんと組み込んでおかないといけないです。そうしないと、後で議論してもありえないですよ。そこは、きちんとやっておかないといけない。また、作ってしまうと乗り入れなければいけなくなるので、痛し痒しですが、いずれにしてもこれからの公共施設は、バスが乗り入れるというのは大事だと思います。施設を作る中で、どこでどういう風に動線を確保して停留所を置くのか、ということを中心に設計に入れていただくのが大事です。

あと、これからのこの計画の策定のスケジュールをきちんとしていただきたい。非常に重要な計画なので、一回これだけを議論する協議会をした方が良く個人的に思います。そうでないと、今回は出てきたばかりで意見もなかなか出ませんので、これだけを検討する会議が必要だと思います。

また、私がお願いしたいのは、コミュニティ交通に極めて偏った計画なので、以前からも指摘していますが、路線バスをどう活性化するか、あるいは、鉄道、特に名松線をどう活性化するか、きちんと書き込むべきです。それから、タクシーについても大事な公共交通機関ですので、どういう風に活かしていくかということを中心に書き込むべきだと思います。そのあたりを含めた案を作るための検討の会を1回作るべきだと思います。その上でスケジュールを示していただきたいと思います。

会長

どこに力を入れるかということ副会長から指摘があったと思います。先般のシンポジウムの中でもありましたが、コミュニティバスだけではなく、公共交通もありますので。こういう形で連携計画、さらに踏み込んだ議論、意見が出せる場所を設けたいと思います。

こういった計画を策定するに当たっては、ビルドアップの観点から、評価があって、その評価システムの改定についてです。事務局からお願いします。

事務局（「松阪市コミュニティバス路線評価システム」の改定について資料に基づき説明）

会長

効果指標について、こういった意味があるのか、何を測ることができるのかというところ、コミュニティバスを運営していくことのコストですね。やれば絶対に効果指標はなかなか測れないというところがあると思います。そのあたりをどうするかということがあるので、定性的評価という部分があるのだと、教科書的な話になりますが、フィードバックの仕組みを作る、全部数字で割り切れる簡単なものばかりではありません。これが無ければ、合理性で徹底的にやっしまえという話になりますが、そうはいかないという問題です。どうやって次を考えるのかというものです。

非常にテクニカルな指標ですので、これを見て判断するというのは大変なところがあると思います。副会長いかがですか。

副会長

ほとんど変更がないのでこれで良いと思いますが、気づいたのは第3次の連携計画の中に何も書いてありません。この評価は、この路線がこのままで良いのか、もっと変えていかなければいけないのかということ、地域の方にも考えていただいて、市の全体の協議会の中で、どこがちゃんとやっていて、どこがまずいのかということ、を浮き彫りにするものですので、そのことを踏まえて今後どう見直しを行なうのかということ、連携計画の中にきちんと位置づけをする。また、各地域の運行協議会がこの評価をどう活用していくのかを考えていただきと思います。

会長

一つ一つ議題としては、細切れにされていますが、全部繋がっているということですね。繋ぎ方をどうするか、どこから議題にするかという難しいところはあると思いますが、今日は、第3次の総合連携計画をきちっと作っていかねばいけない。そのためには、評価の仕組みですね、これはコミュニティ交通全般をちゃんとしなければいけない。これがベースになり資料3、その内容を具体的にみていくと資料2、という流れだと思います。そういうことをチャートで書いておくと、我々も理解しやすく忘れないのかと。そのへんがあっても良いかと思います。せっかくですので、何かございますか。今までの議論を聞いて。

委員

先ほど協働推進事業をやっていきたいということで、提案していただいて、副会長からの指摘などもあり、内容的に見直していただくということになったということで、皆さんからの意見をぜひここに反映していただきたいと思います。内容的にはパンフレットを配るだけとなっていますので、他の市町では色々やっておりますので、情報提供をしながら皆さんと一緒に考えてやっていきたいと思いますのでよろしくお願いします。

会長

ありがとうございました。他に何かございますか。文章などの修正もここで行なっていますが。改定前と改定後の対照表のような形で出していただくと分かりやすいと思いますが。このカタチでご了解をいただいたとしてよいでしょうか。今日は、大変内容の濃い議論がたくさんあったかと思います。限られた時間で、一つばかりしているわけにもいきません。短い時間の中で半ば強引に進めてまいりましたが、こういうカタチで進んでいくと新しい委員の方には、感じてもらえたかと。忌憚りの無い意見を出していただいて、後であのときこう言いたかったな、後でそんなこと知らないよということは無ないように、今後ともご協力を賜りたいと思います。合意を受けたとさせていただきます。

ということで、全て議題が終わりました。

事務局

ありがとうございました。色々提案をいただけるようなカタチになっていなくて申し訳
なかつたと思います。照会はまたお願いさせていただきますし、資料も送付しておこなっ
ていきたいと思います。これで本日の松阪市地域公共交通協議会は終了させていただきます。